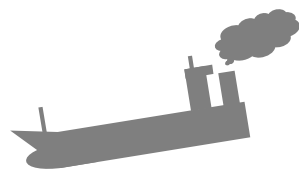




走錨海難防止のための タイムライン



1 事前準備

錨地の底質の把握

東京湾内は(ヘドロの影響で)錨搔きが悪い箇所がある

風向の変化を予測した錨泊

最大風速時の風向を予測し、その風向に対し錨泊

錨鎖の伸出

付近の錨泊船等の周囲の状況が許せば、錨鎖を伸出する

荒天時(概ね風速30mまで)における錨鎖の目安
 $L(m) = 4d(m)+145$ d:水深

錨泊限界の把握

錨地の底質、伸出した錨鎖での錨泊限界風速の把握

錨泊限界を超える風速が予想される場合は...

主機及びバウスラスタを早期にスタンバイ

二錨泊または双錨泊に変更、振れ止め錨の使用

喫水調整

喫水を深くする

トリム調整

可能な限り船首トリムにする

2 錨泊時の注意事項

主機、バウスラスタの使用

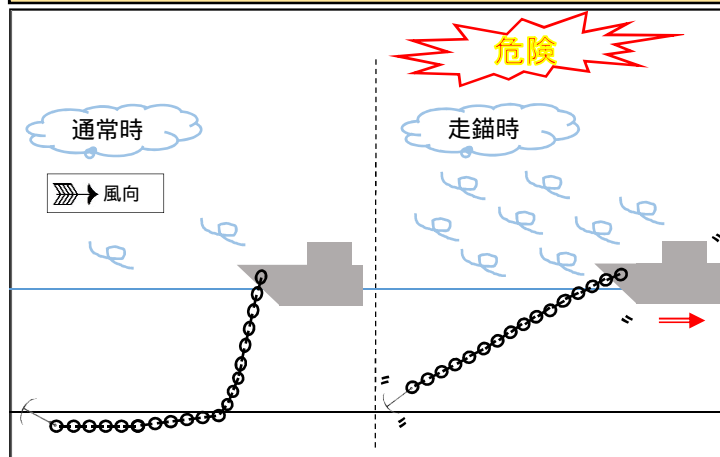
走錨する可能性がある場合は、主機、バウスラスタを使用し、船首を風・風浪に立てる

走錨の早期検知

GPS、レーダ、電子海図等を使用して自船位置を把握するとともに自船の錨泊状況を観察し、走錨の早期発見に努める

走錨の可能性の判断として!

- ・船体の周期的な振れ回りが止まり片舷から風を受ける時
- ・異常な振動を感じる時
- ・錨鎖が張ったままとった時



3 風向が大幅に変化したとき

風向に応じた錨泊

投錨時から大幅に風向が変化した場合は、現在の風向に対して錨を入れなおす

4 走錨時の対応

錨を入れ直す

強風で揚錨できない可能性があることから、強風になる前に錨泊方法を変更することが望ましい
二錨泊または双錨泊に変更(錨鎖が絡まないよう注意)、振れ止め錨を使用する

ちちゅうする

錨泊が危険と判断される場合は、揚錨し、ちちゅうを検討する

本ペーパーの内容は、日本船主責任相互保険組合発行「P&Iロスプリベンションガイド」(第25号(平成25年7月)及び第43号(平成30年7月))を参照しています。

横浜海上保安部 航行安全課
Tel 045-201-8180